

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100018		
法人名	有限会社 釘本		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	佐賀県佐賀市神野西4丁目12番12号		
自己評価作成日	令和 5 年 12月 12日	評価結果市町村受理日	令和6年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和6年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの楽しみは、やはり食事なので、2～3か月に一度、利用者さんに食べたいものを聞いてテイクアウトし提供している。
近くに公園があるため、頻回に散歩に行き外観を楽しむことができる。最近はコロナ禍でできていないが、近くのスーパーに出かけ買い物ができる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは幹線道路より少し外れた静かな住宅街に位置し、道を挟んだ正面に公園がある。春には桜の花々が満開し地域住民の憩いの場となる。コロナ禍前には入居者も毎日のように散歩を楽しんでいた。ホーム内は明るく掃除や整理整頓が行き届き、職員は理念のもと入居者個々に寄り添う支援に努めている。年間の行事計画を立て、同グループ管理者の協力を得て季節に応じ初詣や花見、地域行事の見学や個別の買い物支援など行っている。また入居者が希望する献立を取入れ、生活に楽しみが持てるよう心掛けている。医療支援も充実しており、往診や訪問看護を取り入れ、常駐の看護師もおり、健康維持管理が図られている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム名「あおぞら」を頭文字とし家庭的な環境でその人らしさを大切に地域の方々と関わることを理念に共通理解している。	平成18年に開設、時の流れに伴い、理念内容の見直しも行っている。認知症の理解を基本とし、月1度のミーティング時、職員間で理念の内容共有を図り、入居者個々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム東側の公園は、散歩コースやスポーツ活動も盛んで、気候の良い時は、散歩へお連れし、挨拶をかわし交流を図っている。	入居者の高齢化とコロナ禍で地域住民との交流の機会は以前ほどではないが、天気の良い日は出来るだけ散歩し、挨拶など心掛けしている。地域のお祭りの神輿が年1回ホームに立ち寄り入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、民生委員さんの参加により、問題事例を伝えて感想や意見を伺い、認知症の理解を深め、地域貢献に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告、事故報告、困難事例検討、自己評価、外部評価の報告をしている。多方面での意見を聞き、サービスの質の向上に活かしている。	年6回定時に開催し、内容の記録もきちんと整備されている。施設職員同グループの職員や地域包括支援センター職員、民生委員などの参加は毎回あるが、家族入居者の参加が十分ではない。	今後、家族も参加しやすいように、開催の日時や時間帯の配慮など、工夫されることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の空き状況や待ち状況を毎月報告している。地域の研修会(成章ネットワーク)に積極的に参加し、協力関係を築けるよう努力している。	市とは日頃より連携を図り、メールで報告したり、地域包括支援センター主催の勉強会に毎月参加し、協力関係の構築に努めている。研修で得られた情報は職員に周知している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部、外部の研修に参加し、皆で周知している。 身体拘束の事例はない。	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し記録の整備もある。外部の研修に参加しており、職員へ内容を伝達し、共有もなされている。ホームの構造的な問題もあり入居者の安全を考慮し、玄関施錠がなされてる。	玄関の施錠は身体拘束の事項になっており、安全にも配慮しつつ、施錠しない時間を設けるなど、検討されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1～2回の勉強会を実施し、高齢者虐待防止員会を3か月に1回開催。 職員全体が意識を高め、日常的に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、自学にて学んでいる。権利擁護の制度を活用すべく、利用者様へ迅速に対応できた。ご家族様へもスムーズに説明することができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの内容や料金について詳しく説明し、理解して頂くように努めている。また、法改正時は、説明書を作成し、口頭で再度説明し、同意書や確認書を作成している。その都度意見をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月近況報告をご家族にお手紙として郵送している。 来訪時やお電話の際、家族の希望を伺い、プランに反映している。	家族の面会時、職員は意見の聞き取りに努め、毎月の会議時に報告し、出来ることは運営に取り込み対応している。また、毎月の園便りとともに入居者個々の状態を家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンス、勉強会時に意見交換をしている。改善してほしいところなど運営側に伝えている(11月より、勤務時間の変更あり。日勤、遅出勤務時間。)	管理者は毎月の会議の時、職員からの意見の聴取に努めており、年間計画への実施や、働きやすい出勤体制の見直しなど、出来ることは運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのため、研修の案内や参加、資格取得を促し、講習料金の全額負担し、研修時の勤務時間の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術向上の研修会等には可能な範囲で参加し、報告書を提出し、回覧にて周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修(成章ネットワーク)に参加し、同業者との交流を図り、情報交換を行い、質の向上に役立っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心した生活が送れるように、不安や困難事項を早期に対応し、ご家族や関係者と情報交換を密に行い、利用者様のニーズを十分に聞き入れ、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、自宅や入院先を訪問し、利用者様、ご家族様の意見を十分に聞き、ニーズを引き出す努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で現況と家族様、ご本人様の意見を十分に把握し、医療機関、他の専門機関等の意見も参考にし、支援とサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な生活空間のなか、食器拭きや食事の下ごしらえの手伝い、洗濯物干し、たたみ等の簡単な家事手伝いをして頂き、感謝の気持ちを伝えることで支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が安心して生活できるよう家族様へ近況報告をし、ご家族の協力を得て、ご本人様のサポートができる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類に移行したことを機に、面会を再開し、近所に住むなじみの方の面会時の橋渡しを行い、楽しい雰囲気づくりに努めている。	コロナ禍で一時難しくなっていたが、最近はい居者個別に買い物に行ったり、家族や近所の知り合いの訪問も再開し、訪ねやすい雰囲気作りを心掛けている。天気の良い日は公園への散歩も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を考え、気の合う方同士を隣同士にしたり、合わない方同士の席を離し、工夫している。また、孤立しないよう、毎日のレクリエーションに全員で参加し、協力しゲームに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、利用者様のその後の近況のお手紙をいただいたり、連絡をいただき、良好な関係が築けている。ご家族からの相談あれば、快く受ける心構えである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や思いを傾聴し、生活リズムや行動を把握して、職員間で情報を共有し話し合い本人様の意向に添えるように努めている。	職員は日々の介護の中で、入居者本人の意向の把握に努めている。意向を表現できない方は表情で判断したり、家族より情報を聞き取り、出来るだけ本人の思いや希望に沿えるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人様やご家族から話を聞き、生活歴、病歴、興味のあること等、アセスし、把握する。また、これまでの担当ケアマネいれば、協力を仰ぎ、情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人記録記載、バイタル測定記録記載にて、確認できるようにしている。また、月に1度のカンファレンスにて、利用者様の最近の様子を職員間で周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを開き、最近の様子や問題点などを話し合い、介護計画に反映させている。現場スタッフの気づきを大切に計画の見直しに努めている。	介護計画作成時、ホーム職員間での話し合いは適切に行われている。しかし、家族より介護計画の同意は得られているが、十分な話し合いとまでは至っていない面がみられる。	介護計画書の作成にあたり、家族と共に考えやすい内容や、説明方法を検討するなど、家族と十分な話し合いの機会となるよう、期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日時系列に生活の様子を記録しているが、パターン化し、同じような内容になっている。 ケアの実践、結果等、内容のある記録となるよう見直し、徐々に改善している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の状況に応じ、対応出来ないときには、実費ヘルパーを利用したり、食事の入らな利用者様に対しては、別メニューで対応したり、補助食品を提供し対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加(浮立見学、三社参り)したり、近くの商店に買い物にでかけている。また、向かいの公園に散歩へ行き、気分転換行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き、1か月2回の定期的な往診を受けている。急変や緊急時にも主治医と協力体制をとり、早期の適切な医療が提供できるよう、医療連携に取り組んでいる。	かかりつけ医は、本人家族の希望で選択できる。家族支援が困難な場合、往診や訪問看護を利用している。他科受診や緊急時はホーム職員や家族が協力し、日頃より連携を取り、適切な受診支援体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が、毎日の健康観察行い、少しの皮膚トラブルも見逃さず、報告行い、指示を仰いでいる。また、24時間体制で、連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	佐賀記念病院と、矢ヶ部医院と医療連携を結んでおり、入院時には地域連携室、主治医、ご家族と密に情報交換し、早期退院できるように常に病院関係者との関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人・家族を含め、重度化や終末期について説明し、ホームで対応できる範囲について説明し、理解をいただいている。	終末期の看取りは行っていない。入居時の契約書で家族に説明している。近隣病院への対応と、往診や訪問看護の利用は可能であり、看護師が常駐し支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に必要な事例等挙げて緊急時の対応を話し合っている。看護師による指導も行い、シュミレーション行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて、昼間、夜間の火災の避難訓練行っている。地震や水害等では、避難の仕方も変わってくるため、今一度職員全員でマニュアルを見直し、シュミレーション行っていく。	火災を想定した消防訓練を年2回消防署の指導の下で行っている。水害も予想され、防災マニュアルを作成して、避難時に必要な担架や備蓄品も備えている。しかし、夜勤専従職員の参加と地域との協力体制は出来ていない。	夜間想定避難訓練での、夜勤専従職員の訓練参加と、地域住民・消防団等との協力関係の体制の構築が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修等で、プライド、プライバシーを損なわない言葉かけや対応を意識付け、介護にあたっている。スタッフ同士でも注意しあえる環境づくりを行っている	プライド、プライバシーを損なわないよう、排泄時の声掛けや入浴時の対応に気を付け、また、入居者の身だしなみなどは本人の意向を尊重するように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食欲低下の利用者様に対し、好みの料理を提供し、喜んでいただいている。 入浴に関しては、強い拒否がある方に関しては無理やり行わない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者様一人一人の体調・気分を把握し、その日どのように暮らしたいか本人の気持ちになって考え、希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフやご家族対応にて本人様の好みの服を準備している。 散髪は、訪問カットを利用し、本人様の希望に沿った髪型を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根切りや玉ねぎ、ジャガイモの皮むき等、可能な範囲で調理を一緒に行っている。また、毎日皿拭きの手伝いをして頂いている。	週3回配食サービスを利用、他の日は管理栄養士が献立を立て、手作りしている。入居者に出来ることは手伝って貰い、誕生ケーキの作成やパン作り、外注の料理なども取り入れ、食事が楽しめるよう工夫支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニューに従って調理し提供している。お茶を好まれない方には、ご家族協力のもと、種類を変えたり、形態(お茶ゼリー)を変えたり、お茶以外の飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。義歯の方は必ず外して口腔ケアをし、夜間は毎日洗浄液につけ、清潔保持に努めている。うがいが難しい方は、スポンジや、口腔ケア用ウェットティッシュ使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排尿、排便の時間や回数を記録し、排泄のパターンを把握し、排泄の声掛け、誘導に努めている。 特に退院後は、おむつ使用者が多いが、定時にトイレ誘導することで尿意が戻り、おむつ外しに繋がっている。	入居者に合わせて支援を行い、全員トイレでの排泄が可能となっている。介護度の高い入居者を除き、おむつの使用はなく、夜間でもリハビリパンツで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士によるメニューに従って調理し提供している。また、毎日の牛乳提供。お茶を好まれない方に関しては、形状を変えたり、種類を変え、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は午前中の中入浴としているが、希望あれば午後からの入浴も可能な範囲で行う。入浴拒否があれば、時間を空け、再度声掛けを行っている。	入浴は2日に1回実施している。入居者の体調や希望に合わせて柔軟に支援しており、柚子湯も取り入れている。介護度が高い入居者には、安心して入浴ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室での休息ができるよう、室温調整を行い、希望に沿い対応している。昼夜逆転とならないよう、午睡は1～2時間とし、声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所時のアセスメントに、薬の内容、目的等記載し、スタッフ皆で周知している。また、往診時の薬の変更時は、往診記録に加え、連絡ノート記入し、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時のアセスメントにて、情報収集を行い、毎日のレクへの誘い、季節の行事への誘いを行い、その方らしい過ごし方を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、職員付き添いでの買い物や、散歩、季節の行事などの支援を行っている。ご家族様の希望があれば、ご家族様の協力のもと、外出、外泊支援も行っている。	入居者の希望があれば、家族の協力と職員同伴で買い物支援や外出を実施している。天気の良い日は外気浴を行い、今年は、花見などの外出を計画している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、利用者様本人がお金を所持している方は1名で、他者様に関しても、希望に応じ、買い物支援等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族の都合の良い時間をお聞きし、本人希望時には電話の橋渡しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、家族の写真、ぬいぐるみ等を置き、温かみのある明るい空間づくりを心掛けている	入居者の体調管理も含めて、温度や湿度、消毒、換気や匂いに配慮し、整理整頓を心掛けている。夜勤者は足音の出ない履物を使用し、職員一同、居心地良い空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、テーブルの配置を工夫し、一人の空間を作れるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、好きなラジオ、テレビを置いて一人の時間を楽しむことのできる空間づくりに努めている。	使い慣れた家具などの持ち込み制限はない。居室は、部屋ごとに広さやベッドの位置が異なっており、入居時本人の心身状態に応じ、本人家族と話し合い、安全に居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、入浴場所の表示や廊下に貼り紙、居室の目印をつける等、自発的に移動できるようにしている。 廊下に障害物を置かずに、車いす自走できる方は、時間がかかっても、自走の声掛けおこなっている。		